

令和7年度 全国学力・学習状況調査 本校の結果について

4月18日に、6学年児童を対象に実施しました「令和7年度 全国学力・学習状況調査」について、文部科学省及び北海道教育委員会、旭川市教育委員会から結果や対策等が公表されました。これらの報告も受け、本校の結果を検証し、その概要と指導の改善策をまとめましたので御報告いたします。

令和7年度の調査では、3年に1度の「理科」の調査も実施しました。また、昨年度に引き続き、児童質問ではCBT形式(端末を使用しての回答)で行いました。

各教科(国語・算数・理科)の結果は、本校では、どの教科について、全道・全国の平均正答率を上回り、求められている学力が定着していることが認められました。そのような結果を踏まえつつ、分析においては各教科の特に正答率が高かったところを「成果」、他の領域や分野に比べて正答率が低かったところを「課題」としています。

今後は、この調査の結果分析をもとに、家庭・地域の連携をいただきながら、学習習慣や生活習慣の改善、そしてさらなる学力向上に向けた指導改善を推進してまいりますので、御理解と御支援をよろしくお願いいたします。

1 国語科に関する結果分析及び指導の改善策

成果	<p>【知識及び技能 言葉の特徴や使い方に関する事項】 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができます。</p> <p>【読むこと】 メモに入る適切な言葉を書き抜くなど、時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えることができます。</p> <p>【話すこと・聞くこと】 インタビューの様子で発言の目的を選択するなど、自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えることができます。</p>
課題	<p>文章と資料や図などを関係付けて考えることに課題がみられました</p> <p>▲【読むこと】 資料を読み、メモとして適切な内容を選択するなど、事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することに課題が見られました。</p> <p>▲【読むこと】 話し合いの様子において発言として適切な内容を選択するなど、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることに課題が見られました。</p> <p>▲【話すこと・聞くこと】 話し合いの様子において発言を説明した適切なものを選択するなど、目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討することに課題が見られました。</p>
指導・改善	<p>文章と資料や図などを関係付けて考えるために</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「情報の時間」の取組と関連させて、各学年の目標に示されている、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の各領域の資質・能力を明確にし、授業を計画、実施していきます。 ○文章・資料・図を並列的に提示し、比較させることで「何か同じで、何か違うか」を考えさせる場を明確に設定します。 ○資料や図等がある場面では、文章と関係づけながら読み進め、「どこに注目すべきか」、「資料が伝えたいことは何か」など、読み取り方を具体的に指導し、思考の深まりを支えていきます。 ○ベン図・Tチャート・マインドマップなどの思考ツールを場面に応じて適切に活用し、共通点・相違点を視覚的に整理できる指導をします。 ○共通点や関係性を見出したあと、それを説明したり、文章でまとめたりするなど、自己表現(アウトプット)の場を設定し、「思考を言語化する力」を育てていきます。 「意見と意見」「資料と文章」「意見と叙述」「図・表と文章」など様々な事柄の共通点を捉えて「関係付ける」ことの向上を目指します。

2 算数科に関する結果分析及び指導の改善策

成果	<p>【数と計算領域】・【データの活用領域】 棒グラフから、比較する項目に着目することや項目間の関係性について読み取ることができています。</p> <p>【図形領域】 角をつくる二つの辺をそれぞれのばした図形の角の大きさについてわかることを選ぶなど、角の大きさについて理解しています。</p>
課題	<p>単位分数の意味理解、式や言葉を使った説明に課題がみられました</p> <p>▲【数と計算】 3/4+2/3について、共通する単位分数と、3/4と2/3が、共通する単位分数の幾つ分になるかなど、分数の加法について、共通する単位分数を見だし、加数と被加数が、共通する単位分数の幾つ分かを数や言葉を用いて記述することに課題が見られました。</p> <p>▲【数と計算】 数直線上に示された数を分数で書くなど、数直線上で、1の目盛りに着目し、分数を単位分数の幾つ分として捉えることに課題が見られました。</p>
指導・改善	<p>概念の意味理解や式や言葉を使って説明することができるために</p> <ul style="list-style-type: none"> ○問題解決後に「なぜそう考えたか」をペアで説明する等、言語化活動を設定します。 ○既習事項や条件を根拠として、図や言葉を活用して、順序立てて話したり、書いたりする時間を意図的に設定します。 ○具体物や図を使って視覚的に体感させる等、それらと関係付けながら理解する場面を設定します。 ○教材にICTを取り入れ、動的な変化を見せることで理解を深めます。 ○考えの意図や理由を話し合ったり・共有したりする活動を設定します。 ○既習事項や問題文に書かれている条件などを根拠としながら、式や言葉を使いながら順序立てて説明をしたり、書いたりする活動を取り入れていきます。

3 理科に関する結果分析及び指導の改善策

成果	<p>【地球を柱とした領域】 実験の条件に目を向けて、適切な実験の方法を発想し、表現することができています。</p> <p>【地球】を柱とした領域 結果や問題に対するまとめを基に、他の条件での結果を予想して、表現することができています。</p>
課題	<p>「金属の性質」、「乾電池のつなぎ方」、「種子の発芽」などに課題がみられました</p> <p>▲【エネルギー】を柱とした領域 【粒子】を柱とした領域 身の回りの金属について、電気を通す物、磁石に引き付けられる物があることの知識の定着に課題がみられました。</p> <p>▲【生命】を柱とする領域 顕微鏡を操作し、適切な像にするための技能の定着に課題がみられました。</p> <p>▲【エネルギー】を柱とする領域 2個の乾電池のつなぎ方について、直列つなぎ(電流を強くするつなぎ方)に関する知識の定着に課題がみられました。</p>
指導・改善	<p>実感を持った理解や問題意識を醸成するために</p> <ul style="list-style-type: none"> ○子供たちから多くの疑問を引き出し、問題意識を醸成するよう導入を工夫します。 ○体験的な学習を充実させて、児童が知識を獲得していく手立てを講じます。 ○事象→疑問→問題→予想→実験→結果→考察→まとめ→新たな問題といった学習の流れを定着させます。 ○実験や観察の結果などを、ICTも活用して考察・共有を効果的に進めていきます。 ○「比較」や「変化」に着目できるような工夫をします。

【全国の結果】 国立教育政策研究所 <https://www.nier.go.jp/kaihatsu/zenkokugakuryoku.html>

または、検索サイトで「国研 全国学力」と検索



【北海道 調査結果のポイント】 北海道教育委員会 <https://www.dokyoi.pref.hokkaido.lg.jp/hk/gks/230537.html>

または、検索サイトで「道教委」と検索、サイト内検索で「令和7年 全国学力」と検索



【旭川市の結果・改善策・学習プリント】 旭川市教育委員会

旭川市ホームページ <https://www.city.asahikawa.hokkaido.jp/kurashi/218/251/257/d056900.html>



※それぞれ右の2次元コードからも各サイトに入ることができます。

4 児童質問に関する結果分析及び方向性

児童質問では、日頃の学校や家庭における学びの状況について、児童が感じていることを選択して回答しています。概ねの設問において回答結果から4段階で状況が分かり、各教科の学習調査と合わせて、今後の学習の取り組み方などについて考える資料ともなります。

本校の各設問に対する全体的な傾向は、ほぼどの設問に対しても肯定的な回答が、全国の回答比率と比較して同等でした。その中で特徴的であったところについて以下に示します。

傾向 ○

- 生活リズム・生活習慣についてはできているという回答がほとんどでした。
- 例年、課題と捉えていた自己有用感に関わる項目では、全国を上回り高い結果を示していました。
- 将来の夢や目標についての項目では、「どちらかといえばあてはまらない」と回答する児童が全国と比較して多くいました。
- 普段の生活の中で幸せな気持ちになるという項目についてはほぼ全員肯定的な回答でした。
- 家庭での学習(日常、土曜日、日曜日)は、1時間以上取り組んでいるという回答が全国を上回りました。
- ICTを活用した学びについて、「家庭での活用」、「授業での活用(情報収集、整理、プレゼン)」の肯定的な回答は、どれも全国を上回り高い割合でした。
- 各教科について、算数は得意で好きだと感じている子が多く、全国と比較しても高い割合でした。しかし、算数と比べると国語や理科は苦手意識や好きではないと感じている児童が多く、理科については全国と比較しても若干下回っていました。
- 国語、算数、理科の学習内容についての理解はできていると感じている児童の割合が多かったです。
- 学習したことが将来の役に立つ、生活に生かすことができるといった項目は理科や算数と比較すると国語が高い割合でした。
- 学習調査の問題には、どの児童も最後まで諦めずに粘り強く取り組み回答時間も適切と感じている児童が多いことがわかりました。

以下の設問について全国と比較して「どちらかといえば当てはまらない」の割合が特に多く、課題として捉えることができます。

課題 ▲

▲「将来の夢や目標を持っていますか」の設問
 「中学校に入学したら」など、近い将来像については創造しやすく目標を立てやすいですが、実態として、現時点で明確な将来像を思い描きづらく定まっていなくても捉えられます。将来像を思い描き目標を持つことは、今の自分の行動の方向性を決めたり、意欲を向上させたりするために重要です。
 →夢を持つために、日常から、小さな成功体験を積み重ね、「できること」を増やして「やりたいこと」に繋げていくことが大切です。学校では、日々の授業の中での「できた」「わかった」を積み重ねていくように取り組んでいきます。また、行事などを通して、児童に目標を持たせながら、「やりたいこと」が「実現できた」という経験を積み重ねられるよう計画・実施していきます。

▲「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」の設問
 将来、様々な課題に対して、人との関わりの中で協動的に解決していく力が必要です。そのために多様な価値観を受容することやよりよく話し合っていくことが重要となります。
 →違う意見について考えることが楽しいと感じるためには、「視野が広がる」、「自己理解が深まる」、「よりよいアイデアが生まれる」、「知的探求心が刺激される」などの考えるよさを経験していくことが重要です。また、話し合う場面で、「否定されない」という心理的な安全性も大切です。授業の中では、これらのよさを目的に応じて伝えていくことや、互いの考えを建設的に出し合える関係作り、問い返しなどのやり取りができる方法などを「話し合い活動」の中で取り組んでいきます。

▲「地域の大人に、授業や放課後などで勉強やスポーツ、体験活動に関わってもらったり、一緒に遊んでもらったりすることがありますか」
 地域の様々な取組にも積極的に参加して、そこでの人との関わりや体験を通して学ぶことは、社会性やキャリア形成にも繋がります。
 →学校では、総合的な学習や生活科、社会科、特別活動などで、地域の様々な方を講師として学んだり、直接訪問して体験したりすることで、集団における個々の役割の自覚や責任意識の育成を図り、自他を尊重する心を涵養する指導をより充実し、地域と連携した取組の充実を図っていきます。

本校の授業改善の方向性と関わって

全校で取り組んでいる「子供が主役となる学び」に関わって、1学期の末に取り組んだアンケートとも関わる設問について、取り上げて以下のように示します。全ての教科に共通する「ICTを活用した主体的な学びの姿」、「学習の過程」に関わる内容です。

緑が丘小学校「学びのアセスメント」と重なる項目

	質問事項	傾向
①	②～④を可能にするICTの活用	・肯定的な回答の割合が全国と同等の傾向にありました。
	5年生までの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか (1)自分のペースで理解しながら学習を進めることができる	
②	課題の設定、見直し、解決の方法の選択	・肯定的な回答の割合が全国の割合を若干下回っていました。
	5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか	
③	まとめ方、まとめる内容の選択	・肯定的な回答の割合が全国の割合を下回らわり、課題として捉えることができます。
	5年生までに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか	
④	学習計画、教材選択の共有・判断	・肯定的な回答の割合が全国の割合を若干下回っていました。
	5年生までに受けた授業は、自分にあった考え方、教材、学習時間などになっていましたか	
⑤	協動的な学びのタイミング、メンバーの判断・選択	・肯定的な回答の割合が全国の割合を上回っています。
	学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか	
⑥	振り返り、メタ認知、自己調整	・肯定的な回答の割合が全国の割合を上回っています。
	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか	

★学んだことを活用することで

児童質問紙の結果から、「主体的に学ぶ」「まとめる活動」に課題が見られました。教科ごとの知識はそれぞれに意味がありますが、それらを組み合わせることで、より深く物事を理解できます。学んだ知識を使って自分の意見をまとめることで、思考を整理する練習になります。また、言葉で説明したり、文章にまとめたりすることで、他の人に分かりやすく伝える力も身につきます。複数の教科で得た知識や視点を使って自分の意見をつくることで、実際の問題に対応する力(いわゆる「生きる力」)が育ちます。
 ただ知識を覚えるだけでなく、それを使って「自分はどうか考えるか？」を考えることは、主体的に学ぶ姿勢につながります。自分の考えをもつことで、学びが自分自身のものになっていきます。

★主体的な学びとするために

「わかる」だけでなく「やってみたい」「自分なりに考えたい」という気持ちを育てることが出発点です。そのために、授業の中で自分の考えをもつ機会、選択する場面、振り返る時間を授業の中で意図的に位置付けて確保し、「子供が主語となる学び」を目指していきます。

★「まとめる活動」を充実させるために

学習したことをまとめる際には、「何のためにまとめるか」など目的を明確にし、児童と共有しながら取り組みます。また、まとめるための様々な方法・手立てを学年の発達段階に応じて適切に指導します。他教科も含めて既に学んだことを活用したり、関係付けて知識を再構成させたりしながら取り組みます。